Y02a 時の記念日と1920年に開催された「時」展覧会について

井上毅（明石市立天文科学館）, 根本摩耶 (NTT ファシリティーズ), 井村恵美（郵政博物館資料センター）, 佐々木勝浩（国立科学博物館名誉館員）

6 月 10 日は「時の記念日」である。時の記念日は 1920（大正 9）年に東京教育博物館（現国立科学博物館）で開催された「時」展覧会（1920 年 5 月 16 日〜7 月 4 日）が契機となり誕生した。この展覧会では、東京天文台や逓信博物館等の機関や個人などから出品された時に関する多くの資料 を展示され、約 22 万人の来館者があった。会期中に時間励行の呼びかけを行うことになり、天智天皇による日本最初の報時の日（671 年 6 月 10 日）を時の記念日と呼ぶことになった。事業開催には東京天文台の平山清次、早乙女清房ら天文関係者も関わり、特に東京天文台技師の河合章二郎は熱 心に事業の推進にあたった。時の記念日当日、5 万枚のビラがまかれ、正午に東京中の鐘が一斉に鳴らされるなど、空前の盛況となった。博物館での展 示を超え社会全体に大きな影響を与えたことは、現在の科学教育普及にも大いに参考になる出来事だったといえる。時の記念日や「時」展覧会について は佐々木による先行研究を基礎として井上が追跡調査を行っている。一連の詳細については天文月報（第 13 巻第 5 〜 7 号 1920 年）および図録（1920 年発行）に詳しく記載され、出品物のリストもある。関東大震災や戦災を経ているため大半の資料の所在は不明であるが、国 立天文台には東京天文台から出品された古暦や機器類が保存されていることが確認されている（2010 年井上の調査による）。逓信博物館出品の資料 については 2014 年に根本と井村の調査協力により郵政博物館資料センターに日時計、機器、絵図が良好な状態で保存されていることが判明した。こ れらは明治期の社会と時間の関係を知る貴重な資料である。本発表では、時の記念日の意義、「時」展覧会の出品物追跡調査で判明した新知見、 2020 年の時の記念日 100 周年に向けた企画構想について紹介する。